

1 小学校低学年の指導例（2）

- ◆ **主題名** 小さいのち **指導内容** D [自然愛護]
資料名 かつげ川のカメ (王寺町郷土資料② 王寺町教育委員会)

◆ **ねらい**

身近な自然の中で懸命に生きている動物の姿を見て、いとおしさを感じる主人公に共感することを通して、動植物を守り育てることの大切さを理解し、動植物にやさしい心で接しようとする心情を高める。

◆ **展開のあらまし**

○主な発問 ・予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
<p>○ 石みたいに見えたもののことが気になって仕方がなかったアミは、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし生きているカメだったら心配だな。他の車がひいてしまうかもしれない。 ・石かもしれない。カメだったとしても、前見た犬みたいにもう死んでいるかもしれない。 ・このまま何もしなければ、きっと後悔するだろう。 	<p>◆ 主人公が以前に見た車にひかれた動物を思い出していることから、もし生き物だったなら、そのまま放置しておくとは他の車にひかれてしまうかもしれないという主人公の焦燥感や何とかしたいという責任感を捉えることができるようにする。</p>	
<p>○ お父さんの「もどってみよう」という言葉を聞いたアミは、どんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかった。カメだったら助けることができる。 ・カメじゃなかったら安心できる。 ・お父さんもわたしと同じ気持ちだったんだなあ。 	<p>◆ 同じことを考えていた父への共感とともに、生き物なら助けたいと願い、石だったのなら安心できるという生命に対する主人公の姿勢に思いを巡らせるようにする。</p>	
<p>◎ およいでいくカメを見ながら、アミが考えていたのはどんなことでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けることができてよかった。でもまたこんなことが起こるかもしれない。 ・これからも助けたいけど、いつもここには来れない。 ・生き物のためにどんなことができるのかな。 	<p>◆ 助けることができた喜びや安心感ではなく、考え込む主人公の心情について話し合い、動植物の生命を守り育てることの大切さを理解し、自分たちにできることを考えようとする判断力を育てるようにする。</p>	ワークシート
<p>○ 小さな生き物を見て、大切にしたいなと思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金魚の元気がなくなってきて心配した。一生懸命世話をして、元気になってうれしかった。 ・しおれていた花を見て、そえ木をしたり水をあげたりした。 	<p>◆ 主人公と同様の体験や、動植物の生命について考えた経験などを振り返って話し合い、実践意欲や態度を高めるようにする。</p>	

※ 展開のあらましに加え、導入として教材への興味喚起や追究する課題把握ができる活動等を、終末としてさらに見方や考え方を広げ深めるような説話や学習の振り返り等を行うなど、教材やねらい、児童の発達段階等に応じて指導を工夫したい。